「ロマンス語における心態詞」とイタリア語 mai

東京外国語大学 世界言語社会教育センター講師
土肥 篤
atsushi.dohi@tufs.ac.jp

対象とする現象

- イタリア語のmaiはいわゆる否定極性表現（NPI）として否定文に現れ、時を表す副詞としての用法(1)のほかに、疑問詞疑問文(2)（と条件節(3)）に現れてある種のニュアンスを付け加える働きを持つ：

(1) Non sono <u>mai</u> stato a Monaco. （否定平叙文）
「私はミュンヘンに行ったことがない。」

(2) Cosa significheranno <u>mai</u> quelle parole? （疑問詞疑問文）
「あの言葉はいったいどういう意味なんだろう？/あんな言葉が何を意味するというのか？」（Coniglio 2008: 108）

(3) Se venisse <u>mai</u> davvero, mi farebbe un piacere. （条件節）
「もし本当に来るようなら、嬉しいんだけど。」（Manzini 2015: 113）

本発表のトピック

1. ロマンス語における心態詞
   - ➢ドイツ語心態詞研究のロマンス語への応用
   - ➢心態詞のカテゴリゼーションについて

2. 心態詞としてのmai
   - ➢同音異義語分析 (Coniglio 2008)
   - ➢多義語分析 (Manzini 2015)

3. Maiの単義語分析
   - ➢時を表すことと発語内行為を修正すること
   - ➢平叙文と疑問文におけるmai

文法記述におけるmai

- 文法書や辞書でもしばしば時を表す副詞にとどまらないmaiの意味が指摘されている

  「時を表す副詞[...]疑問文の強調に加えて、se maiの形で条件節に使われる」(Serianni 1997: *mai* in *Glossario e dubbi linguistici*)

  ➢他にTrifone & Palermo (2020: 202), Sensini (1997: 346)など

  「様態の副詞として否定・疑問・条件節の非現実性を強めることができる。」(Devoto-Oli: *mai*)

- イタリア語文法体系や言語一般の研究における位置付けは？

➢ドイツ語心態詞との類似性（Gudrun 1988, Coniglio 2008）

ドイツ語における心態詞

- ドイツ語学における心態詞研究 (Weydt 1969; Hentschel 1986; Thurmair 1989)

➢表現される出来事に対する話し手の態度、すなわち（ある種の）モダリティ（cfr. Kiefer 1987)を表す一連の不変化詞

➢“Modal” particles (ted. Modalpartikeln/it. particelle modali)のほかにAbtönungspartikeln (Weydt 1969), Einstellungspartikeln (Doherty 1985)など (Diewald 2007: 117)

(4) a. Wo wohnst du <u>denn</u>?

「どこに住んでるんだっけ？」(Bayer & Obenauer 2011: 450)

b. Haider ist <u>ja</u> betrunken gewesen.

「ハイダーは酔っ払ってたね。」(Abraham 2012: 91-92)

「ロマンス語における心態詞」

- 心態詞研究のロマンス語への拡張（伊Radtke 1983; 仏Hölker 1990, Dalmas 1989; 西 Zorraquino 1992, Acosta Gómez 1984; 葡 Franco 1989, 1991; ロマンス語全般を扱ったものにKoch & Oesterreicher 1990, Meisnitzer 2012）

➢ 心態詞のロマンス語における“functional equivalents”（Waltereit 2001）を探る研究（他にMasi 1996）

➢ 心態詞が会話戦略の中で持つ機能（“gesprächsstrategische Aspekt”; Gudrun 1988: 68）への注目

(5) a. Ja, ich dachte, irgendwann muss ich <u>ja mal</u> anfangen...

b. Sì, mi sono detto, prima o poi dovrò <u>pur</u> cominciare...

「はい、そのうち始めないとかなって…」（Cognola & Moroni 2022: 8）

イタリア語心態詞研究の論点

- 動詞の活用や有標の語順などと並んで、イタリア語においてもしばしばpurやcertoのような不変化詞がドイツ語心態詞に相当する機能を果たしている（cfr. Radtke 1983; Cardinaletti 2015）
- 特にConiglio (2008)以降の生成文法の枠組みにおける研究の発展（Meisnitzer 2012; Remberger 2021）

➢こうした不変化詞は「イタリア語における心態詞」か？論点に

"[A]re there MPs in Italian?" (Coniglio 2008: 93)

- そもそも、ドイツ語の心態詞とは何か？

➢定義に関する共通見解の不在 (cfr. Schoonjans 2013; Diewald 2013)

➢個別の研究によって注目する特徴が異なる (Moroni 2010: 3)

心態詞のカテゴリゼーション

- 「イタリア語における心態詞」の研究は、ドイツ語における心態詞のカテゴリゼーションの問題（cfr. Diewald 2013）と密接に結びついている

➢特に果たす意味機能の多様さに起因する定義の難しさ（cfr. Fischer 2006; Mosegaard Hansen 1998: 42ss.）

- （おそらく）もっとも広く同意をみているのは、心態詞は文の命題内容（propositional content）に貢献しないということ

➢(6a)と(6b)は同じ真理条件（truth conditions）を持つ

(6) a. Die Malerei war <u>ja</u> schon immer sein Hobby.
「ずっと絵が趣味だったからね。」
b. Die Malerei war schon immer sein Hobby.
「ずっと絵が趣味だった。」（Waltereit 2001: 1393）

心態詞と命題内容

- 命題内容に貢献しないというのは、定義としては明らかに不十分

➢いわゆる文副詞(7)や談話接続詞(8)は、命題内容に貢献しない

(7) Unfortunately, I don't know the answer. (Waltereit 2001: 1393)

(8) You have to have another drink. After all it is your birthday. (Blakemore 1992: 140)

- 命題内容に貢献せず、話し手の主観を表すような表現（談話標識discourse markers）は普遍的にみられる現象 (cfr. Koch & Oesterreicher 1990)

➢心態詞の意味・語用論を確立するための多様なアプローチ（Abraham 2009; Egg & Mursell 2016など）

- 「ロマンス語に心態詞はあるか」を問うために何が必要か？

➢統語（・形態・音韻）上の基準

心態詞の統語

- 形態や音韻に関わる諸特徴（cfr. Diewald 2013: 15-17）に加えて統語上の特徴が定義に使われる

➢心態詞は、中域（Mittelfeld）に現れる

(9)　Was ist [$_{MF}$ <u>denn</u> hier] passiert?
「何があったんだろう？」（Thurmair 1989）

- 中域への制限はしばしば心態詞が持つ特徴の中でも決定的なものとされる（Abraham 1991; Coniglio 2008）

➢ロマンス語はそもそも枠構造をもたない

➢統語的特徴によって定義するのは（も）困難

イタリア語における心態詞

- Coniglio (2008)は次の統語的特徴(a)と意味的特徴(b)の組み合わせからイタリア語における心態詞の存在を主張している

a）典型的に命題内容に関わる位置にしか現れることができない

b）それにもかかわらず、文全体にスコープを持つ

- 「イタリア語における心態詞」は、 統語的特徴と意味的特徴の組み合わせから定義される

➢本発表では、意味的特徴(b)に注目する

➢統語的特徴に関する議論については、Cardinaletti (2015), Cognola & Cruschina (2021)も参照（また反論について、Manzini 2015）

心態詞のスコープ

- 「文全体にスコープを持つ」とは？

➢文が持つ発語内の力を修正する要素（“modifiers of illocution type”; Jacobs 1991: 141; Jacobs 1986）としての心態詞

➢次の文では、jaが「発語内行為を強める」“Verstärkung des illocutiven Akts” (Thurmair 1989: 109)ために使われている

(10)　Komm <u>JA</u> nicht zu spät heim!
　　「遅くなりすぎずに帰りなさい！」

- 要するに、

(11)　心態詞の意味機能 (Coniglio & Zegrean 2012: 233)
　　X + *Prt* = X’ (where X stands for illocutionary force)

心態詞と発語内行為

- 「心態詞が発語内行為を修正する」？

➢動詞の法やイントネーション、表情、話者間の関係を含む言語内・言語外の諸条件が発語内行為の同定には関わっている

(11’) $P_1, P_2, P_3, \ldots P_n + Prt = X$

- 個別の語彙が持つ意味は研究課題として残る

➢(10)におけるjaが「文をより強い命令として理解せよ」という意味であるとは思われない

➢Jaの持っている意味が**結果として**発語内行為に貢献する

まとめ (1/3)

- ドイツ語心態詞研究のロマンス語への拡張
  - ➢イタリア語（ロマンス語）に心態詞はあるか？
  - ➢会話戦略上の対応物を探る初期研究

- 理論言語学の枠組みにおける心態詞研究の発展
  - ➢ドイツ語心態詞のカテゴリゼーションの問題との関わり
  - ➢統語的特徴と意味的特徴の組み合わせによる定義
  - ➢意味について、言語行為理論に基づいた発語内行為の修正要素としての心態詞

2. 心態詞としてのmai

- Maiは典型的なイタリア語における心態詞として扱われる：

  “the particle *mai*, like German MPs, displays typical characteristics of CP-related elements.” (Coniglio 2008: 111)

- Maiが心態詞かを明示的に議論している研究：

Gudrun (1988)　：初期研究、会話戦略上の価値
Coniglio (2008)　：意味と統語の組み合わせによる定義
Manzini (2015)　：Coniglioへの反論
Cognola & Moroni (2022)：Coniglioに準拠
➢Maiが持つ二つの読みの関係に関する議論

Coniglio (2008)

- (1)と(2)のmaiはまったく別の意味を持っている

  "Though being homophonous with the temporal adverb meaning 'never', the Italian MP *mai* has developed a completely different meaning." (Coniglio 2008: 108)

(1) Non sono <u>mai</u> stato a Monaco.

(2) Cosa significheranno <u>mai</u> quelle parole?

- (1)のmaiは時間の副詞、(2)では疑問文の非典型的解釈への貢献

➢Cognola & Moroni (2022: 15-16)にも同様の観察

「[(2)のような文における]maiの意味は明らかに時間の副詞maiとは異なる。[...]Maiは時間を表す意味を持たず、その機能は疑いや驚き、苛立ちを表現することにある」

Maiと同音異義

- (2)のmaiを心態詞であるとみなす立場は、二つのmaiを同音異義語（homophony）であるとみなしている：

➢Mai_1は、平叙文に現れ、命題内容に貢献する

➢Mai_2は、疑問文に現れ、命題内容に貢献せず、発語内行為の決定に貢献する

- この主張は、次の二点を根拠にしている：

➢Mai_1とmai_2は、異なる分布を持っている

➢Mai_1とmai_2は、異なる意味を持っている

同音異議分析への反論

- Manzini (2015: 97)は異なる分布Dを持つ形態Mごとにカテゴリー Cを設ける分析を「記述・規範文法的」(“similar to those of descriptive or normative grammars”)として批判：

(12) Coniglio (2008)による同音異義分析：

a. 平叙文 (D_1) + mai (M) = 副詞 (C_1)

b. 疑問詞疑問文 (D_2) + mai (M) = 心態詞 (C_2)

- 語彙的なあいまい性は通常、推論による一義化（disambiguation）を必要とする

➢ Maiは、（Coniglioによれば）統語環境によって一意に定まる

(13) a. Il <u>canto</u> corale è poco praticato a scuola.
「合唱<u>歌</u>は学校ではほとんど歌われない。」

b. La legna è stata messa in un <u>canto</u>.
「薪は<u>角</u>に置かれた。」（Andorno 2003: 4)

Maiの意味

- Manzini (2015)は maiの意味を“at any time t” (114)とする分析を提案

➢平叙文(1)においては、否定のスコープの中で“at no time t”と解釈される

➢疑問文(2)においては、（否定のスコープに入らないために）単に時間に関して自由変項を導入する（「いつでも」）だけ

➢命題内容に対して貢献することができない

➢その結果として、発語内行為に対する貢献だけが残る

NPIと発語内行為

- Manziniの説明においてなぜmaiが発語内行為の決定に貢献できるのか？

➢NPIは一般的にmaiと同様の効果を疑問文で持つ：

(14) Chi ci capisce <u>niente</u>?

「誰か何かわかるのか？」(Manzini 2015: 113)

- 疑問詞疑問文のmaiはこの効果のみを持つ

➢しかし、ではそもそもなぜmaiを使うのか？

➢この効果自体がNPIに共通する意味特性の結果では？

「時間に関する自由変項」の価値

- Manziniによれば、maiが疑問詞疑問文で命題内容に貢献できないのは否定の不在による

  "it [*mai*] does not fix any temporal reference in itself, but it simply introduces a temporal open variable. In negative contexts it is the negation in whose scope it is construed that contributes negative quantifier properties to it ('at no time t'). In question and hypothetical contexts, existential closure of the variable has no informative value beyond that already provided by the T category; in other words, the only informative value of mai in questions or hypotheticals consists in its pragmatic contribution." (Manzini 2015: 114)

➢ しかし、古イタリア語ではmaiはsempre「いつでも」と共に肯定文に表れていた

(15) io sempre<u>mai</u> poscia farà ciò che voi vorrete

「私はこれから、どんな時でもあなたが望むことをやりましょう」

(Boccaccio, *Decamerone*, VIII, 2-28)

疑問文における時間変項

- 疑問詞疑問文は(16a)のような不完全な命題内容を持つ（Clark 1991を参照）

(16)　Chi hai visto?

「（君は）誰を見たの？」

a.　君がxを見た

➢しばしば聞き手は自由拡充（free enrichment; cfr. Recanati 1993）によって命題内容を調整している

➢(16)の命題内容は、(16a)ではなく(16b)である可能性がある

(16)　b.　君が{昨晩}xを見た

- 疑問文でも聞き手は命題内容が位置付けられる時間座標を気にしているのだから“at any time t”ということには常に情報的価値があり得る

Maiは多義語か？

- Manziniによる分析は、maiを命題内容に貢献する解釈I_1と貢献しない解釈I_2を持つ多義語（polysemy）とみなしている

➢こうした種類の多義性を持つ語は確かに存在する

（17） The cook <u>obviously</u> poisoned the soup.

a. The cook poisoned the soup in an obvious way.

b. It is obvious that the cook poisoned the soup.

(Ifantidou-Trouki 1993: 202)

- こうした多義性は通常、推論による一義化によって解決される

➢Maiは、統語環境によって一意に定まる

まとめ (2/3)

- Coniglio (2008)による同音異義語分析：
➢Mai_1は、平叙文に現れ、命題内容に貢献する
➢Mai_2は、疑問文に現れ、命題内容に貢献せず、発語内行為の決定に貢献する

- Manzini (2015)による多義語分析：
➢Maiは、平叙文に現れると、命題内容に貢献する
➢Maiは、疑問文に現れると、命題内容に貢献せず、発語内行為の決定に貢献する

- 単義語分析の可能性：
➢Maiは、命題内容に貢献する

命題内容と発語内行為

- 命題内容に貢献することと発語内行為の決定に貢献することは相互に排除的ではない

➢命題内容は、それ自体が発語内行為を決定する要因の一つになり得る

(18) La presunta vittima dice di aver lasciato l'appartamento [...]
「被害者とされる者はアパートを去ったと言っている」
(https://www.repubblica.it/spettacoli/people/2023/07/10/news/kevin_spacey_accuse_predatore_sessuale-407283886/)

(19) Sei un angelo.
「君は天使だ。」

時と語用論的推論

- 文が表す出来事を時間軸の中でどこに位置づけるかは、文の真理条件を左右するという意味で命題内容に関わる
- 一方で、時の同定は言語表現からの抽象的・不完全な指示を基にした推論によってなされる

➢ 時は、語用論的に決まる（cfr. Nicolle 1998）

(20) a. Ieri mi sono allenato in palestra.
「昨日ジムでトレーニングをした。」

b. Canto in un coro universitario.
「大学の合唱団で（習慣的に）歌っている/{今度の学祭で}歌う。」

- Maiは、もっぱら推論に対する指示であるという意味でそもそも語用論的な要素

➢「出来事を（他の語彙・文法的手段によってすでに示された以上に）特定の時間に結びつけるな」という推論に対する指示を表す単義語として分析できる可能性

平叙文におけるmai – 時間の副詞として

- 純粋に時間的な解釈は、それ自体が動詞の時制や他の副詞などとの相互作用によって生み出される

(1)　Non <u>sono</u> mai <u>stato</u> a Monaco.

(21) Non <u>faccio</u> mai piani in anticipo.
「事前に計画をすることはない。」

(22) Non <u>ho</u> mai <u>viaggiato</u> <u>in crociera d'inverno</u>.
「冬にクルーズ旅行をしたことはない。」

平叙文におけるmai – 発語内行為の修正

- Maiは、平叙文でも発語内行為に貢献している場合がある

(23) Non ce la farò mai!
「絶対できない！」

- 未来におけるいかなる時（と、そこで実現し得る状況）においても表す出来事（「話し手が成功する」）が真にならないことを表す

➢発話の（非）真実性に対する話し手の強いコミットメント

➢Mai自体の意味は(1), (21-22)と変わらない

疑問詞疑問文と時

- 疑問詞疑問文は、疑問詞によってマークされたギャップを埋めた完全な命題を再現するよう聞き手に要請している（Wilson & Sperber 1988; Clark 1991）

➢命題そのものを含む言語内外の諸要因の影響を受けつつ、質問・修辞疑問文・驚きなど様々な発語内行為と結びつく

(16)　Chi hai visto?

　　a.　君がxを見た。

　　b.　君が{昨晩}xを見た。

- 不完全な命題を時間軸のどこに位置付けるかは、平叙文とまったく同様に言語表現をもとにした推論によって決まる

➢時はしばしば完全な命題に影響し、その結果として発語内行為に影響する

疑問詞疑問文におけるmai

- 疑問詞疑問文におけるmaiは二種類の読みを持つ（cfr. Coniglio 2008）

（24）Chi hai <u>mai</u> visto?

a.　君が（時間tにおいて）xを見た。

➢回答不能読み：「君はいったい誰を見たんだろう？」

➢反語読み：「君が誰を見たというのか？」

- どちらの読みも、maiがなくても可能

➢Maiの存在に関係なく、聞き手は完全な命題（＝答え）に対する話し手の態度を推論して発話を理解する

Maiの回答不能読み

- 回答不能読みでは、完全な命題（＝答え）を話し手が知りたがっている

- Maiは、不完全な命題(24a)を（すでに動詞の時制に特定されている以上の）特定の時間に結びつけないように要求する

➢特定の答えに結びつけない

- どのような答えでも**話し手にとって**価値のある情報

➢話し手の回答不能性

Maiの反語読み

- 反語読みでは、話し手はむしろ聞き手にとって価値のある情報として完全な命題（＝答え）を表現している

- Maiは、不完全な命題(24a)を（すでに動詞の時制に特定されている以上の）特定の時間に結びつけないように要求する

➢特定の答えに結びつけない

- どのような答えであっても**聞き手が**考慮するに値する情報

➢「君は{言及する価値のある}誰も見ていない」

まとめ 3/3

- 平叙文と疑問文で（見かけ上）大きく異なる意味を持つイタリア語の不変化詞mai
  - ➢ドイツ語における心態詞研究との関わり
  - ➢心態詞のカテゴリゼーション
  - ➢命題内容を超える意味を持つ要素としての心態詞

- 命題内容に貢献する単義語としてのmai
  - ➢推論に対する入力の性質としての語彙的意味への注目
  - ➢Maiは心態詞ではない？
  - ➢命題/モダリティの二分法が持つ限界

(1) Non sono mai stato a Monaco.
NEG[1] am PRT been at Munich
「私はミュンヘンに行ったことがない。」[2]

(2) Cosa significheranno mai quelle parole?
What mean PRT those words
「あの言葉はいったいどういう意味なんだろう？/あんな言葉が何を意味するというのか？」(Coniglio 2008: 108)

(3) Se venisse mai davvero, mi farebbe un piacere.
If come PRT really to.me do a favor
「もし本当に来るなら、嬉しいんだけど。」(Manzini 2015: 113)

(4) a. Wo wohnst du denn?
Where live you PRT
「どこに住んでるんだっけ？」(Bayer & Obenauer 2011: 450)
b. Haider ist ja betrunken gewesen.
Haider is PRT drunk been
「ハイダーは酔っ払ってたね。」(Abraham 2012: 91-92)

(5) a. Ja, ich dachte, irgendwann muss ich ja mal anfangen...
Yes I thought someday must I PRT begin
b. Sì, mi sono detto, prima o poi dovrò pur cominciare...
Yes myself am said before or after I.must PRT begin
「はい、そのうち始めないとかなって…」(Cognola & Moroni 2022: 8)

(6) a. Die Malerei war ja schon immer sein Hobby.
The painting was PRT already always his hobby
「絵はずっと彼の趣味だったからね。」
b. Die Malerei war schon immer sein Hobby.
「絵はずっと彼の趣味だった。」(Waltereit 2001: 1393)

(7) Unfortunately, I don't know the answer. (Waltereit 2001: 1393)

(8) You have to have another drink. After all it is your birthday. (Blakemore 1992: 140)

(9) Was ist denn hier passiert?
What is PRT here happened
「何があったんだろう？」(Thurmair 1989: 166)

(10) Komm JA[3] nicht zu spät heim!
Come PRT NEG too late home
「遅くなりすぎずに帰りなさい！」

[1] NEG = negation; PRT = particle
[2] 日本語への翻訳はすべて発表者による。
[3] 大文字は文アクセントを表す。

(11) 心態詞の意味機能 (Coniglio & Zegrean 2012: 233)
X + *Prt* = X' (where X stands for illocutionary force)
(11') $P_1, P_2, P_3, \ldots P_n$ + *Prt* = X

(12) Coniglio (2008)による同音異義分析：
a. 平叙文 (D_1) + mai (M) = 副詞 (C_1)
b. 疑問詞疑問文 (D_2) + mai (M) = 心態詞 (C_2)

(13) a. Il canto corale è poco praticato a scuola.
The song choral is little practiced at school
「合唱歌は学校ではほとんど歌われない。」
b. La legna è stata messa in un canto.
The wood is been put in a angle
「薪は角に置かれた。」(Andorno 2003: 4)

(14) Chi ci capisce niente?
Who here understand nothing
「誰か何かわかるのか？」(Manzini 2015: 113)

(15) io sempremai poscia farà ciò che voi vorrete
I always.PRT then do what that you want
「私はこれから、どんな時でもあなたが望むことをやりましょう」(Boccaccio, *Decamerone*, VIII, 2-28)

(16) Chi hai visto?
Who have saw
「(君は) 誰を見たの？」
a. 君が x を見た。
b. 君が{昨晩}x を見た。

(17) The cook obviously poisoned the soup.
a. The cook poisoned the soup in an obvious way.
b. It is obvious that the cook poisoned the soup. (Ifantidou-Trouki 1993: 202)

(18) La presunta vittima dice di aver lasciato l'appartamento [...]
the alleged victim says of have left the.appartment
「被害者とされる者はアパートを去ったと言っている」
(https://www.repubblica.it/spettacoli/people/2023/07/10/news/kevin_spacey_accuse_predatore_sessuale-407283886/)

(19) Sei un angelo.
are a angel
「君は天使だ。」

(20) a. Ieri mi sono allenato in palestra.
Yesterday myself am trained in gym
「昨日ジムでトレーニングをした。」

b. Canto in un coro universitario.
Sing in a chorus university
「大学の合唱団で（習慣的に）歌っている/{今度の学祭で}歌う。」

(21) Non faccio mai piani in anticipo.
NEG do PRT plans in advance
「事前に計画をすることはない。」

(22) Non ho mai viaggiato in crociera d'inverno.
NEG have PRT traveled in cruise of.winter
「冬にクルーズ旅行をしたことはない。」

(23) Non ce la farò mai!
NEG make.it PRT
「絶対できない！」

(24) Chi hai mai visto?
Who have PRT saw
「君はいったい誰を見たんだろう？/君が誰を見たというのか？」
a. 君が（時間 t において）x を見た。

引用文献

Abraham, Werner. 1991. "The Grammaticization of the German Modal Particles." In *Approaches to Grammaticalization*, edited by Bernd Heine and Elizabeth Closs Traugott, II:331–80. Amsterdam: John Benjamins.

Abraham, Werner. 2009. "Die Urmasse von Modalität Unt Ihre Ausgliederung. Modalität Anhand von Modalverben, Modalpartikel Und Modus." In *Modalität. Epistemik Unt Evidentialität Bei Modalverb, Adverb, Modalpartikel Und Modus*, edited by Werner Abraham and Elisabeth Leiss, 251–302. Tübingen: Stauffenburg Verlag Brigitte Narr GmbH.

Acosta Gómez, Luis. 1984. "Las Partículas Del Alemán Y Del Español." *Studia Philologica Salmaticensia* 7-8: 7–41.

Andorno, Cecilia. 2003. *La Grammatica Italiana*. Milano: Bruno Mondadori.

Bayer, Josef, and Hans-Georg Obenauer. 2011. "Discourse Particles, Clause Structure, and Question Types." *The Linguistic Review* 28 (4): 449–91.

Blakemore, Diane. 1992. *Understanding Utterances. An Introduction to Pragmatics*. Oxford: Blackwell.

Cardinaletti, Anna. 2015. "What Do You Do If You Don't Have Modal Particles?" In *Charting the Landscape of Linguistics: Webschrift for Josef Bayer*, edited by Ellen Brandner, Anna Czypionka, Constantin Freitag, and Andreas Trotzke, 16–21. Konstanz: University of Konstanz.

Clark, William. 1991. "Relevance Theory and the Semantics of Non-Declarative Sentences." University College London.

Cognola, Federica, and Manuela Caterina Moroni. 2022. *Le Particelle Modali Del Tedesco. Caratteristiche Formali, Proprietà Pragmatiche Ed Equivalenti Funzionali in Italiano*. Roma: Carocci.

Cognola, Federica, and Silvio Cruschina. 2021. "Between Time and Discourse. A Syntactic Analysis of Italian Poi." *Annali Di Ca' Foscari* 55: 87–116.

Coniglio, Marco. 2008. "Modal Particles in Italian." *University of Venice Working Papers in Linguistics* 18: 91–129.

Coniglio, Marco, and Iulia Zegrean. 2012. "Splitting up Force: Evidence from Discourse Particles." In *Main Clause Phenomena. New Horizons*, edited by Lobke Aelbrecht, Liliane Haegeman, and Rachel Nye, 229–55. Amsterdam: John Benjamins.

Dalmas, Martine. 1989. "Sprachakte Vergeleichen: Ein Beitrag Zur Deutsch-Französischen Partikelforschung." In *Sprechen Mit Partikeln*, edited by Harald Weydt, 228–39. Berlin: De Gruyter.

Devoto, Giacomo, and Gian Carlo Oli. 1971. *Dizionario Della Lingua Italiana*. 15th ed. Firenze: Le Monnier.

Diewald, Gabriele. 2007. "Abtönungspartikel." In *Handbuch Der Deutschen Wortarten*, edited by Ludger Hoffmann, 117–42. Berlin: De Gruyter.

Diewald, Gabriele. 2013. "'Same Same but Different' – Modal Particles, Discourse Markers and the Art (and Purpose) of Categorization." In *Discourse Markers and Modal Particles*, 19–45. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Doherty, Monika. 1985. *Epistemische Bedeutung*. Berlin: Akademie-Verlag.

Egg, Markus, and Johannes Mursell. 2016. "The Syntax and Semantics of Discourse Particles." In *Discourse Particles*, edited by Josef Bayer and Volker Struckmeier, 15–48. Berlin: De Gruyter.

Fischer, Kerstin. 2006. "Towards an Understanding of the Spectrum of Approaches to Discourse Particles: Introduction to the Volume." In *Approaches to Discourse Particles*, edited by Kerstin Fischer, 1–20. Leiden: Brill.

Franco, António. 1989. "Modalpartikeln Im Portugiesischen. Kontrastive Syntax, Semantik Und Pragmatik Der Portugiesischen Modalpartikeln." In *Sprechen Mit Partikeln*, edited by Harald Weydt, 240–55. Berlin: de Gruyter.

Franco, António C. 1991. *Descrição Linguística Das Partículas Modais No Português E No Alemão*. Coimbra: Coimbra Editora.

Gudrun, Held. 1988. "Italienisch: Partikelforschung." In *Lexikon Der Romanistischen Linguistik, Band IV: Italienisch, Korsisch, Sardisch*, edited by Günter Holtus, Michael Metzeltin, and Christian Schmitt, 63–75. Tübingen: Niemeyer.

Hentschel, Elke. 1986. *Funktion Und Geschichte Deutscher Partikeln. Ja, Doch, Halt Und Eben*. Tübingen: Max Niemeyer.

Hölker, Klaus. 1990. "Französisch: Partikelforschung." In *Lexikon Der Romanistischen Linguistik, Band V: Französisch, Oktanisch, Katalanisch*, edited by Günter Holtus, Michael Metzeltin, and Christian Schmitt, 77–88. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.

Ifantidou-Trouki, Elly. 1993. "Sentential Adverbs and Relevance." *Lingua. International Review of General Linguistics. Revue Internationale de Linguistique Generale* 90 (1-2): 69–90.

Jacobs, Joachim. 1986. "Abtönungsmittel Als Illokutionstypmodifikatoren." *Groninger Arbeiten Zur Germanistischen Linguistik* 27: 100–111.

Jacobs, Joachim. 1991. "On the Semantics of Modal Particles." In *Discourse Particles. Descriptive and Theoretical Investigations on the Logical, Syntactic and Pragmatic Properties of Discourse Particles in German*, edited by Werner Abraham, 141–62. Amsterdam: John Benjamins.

Kiefer, Ferenc. 1987. "On Defining Modality." *Folia Linguistica* 21: 67–94.

Koch, Peter, and Wulf Oesterreicher. 1990. *Gesprochene Sprache in Der Romania: Französisch, Italienisch, Spanisch*. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.

Manzini, M. Rita. 2015. "Italian Adverbs and Discourse Particles." In *Discourse-Oriented Syntax*, edited by Josef Bayer, Roland Hinterhölzl, and Andreas Trotzke, 93–120. Amsterdam: John Benjamins.

Masi, Stefania. 1996. *Deutsche Modalpartikeln Und Ihre Entsprechungen Im Italienischen: Äquivalente Für Doch, Ja, Denn, Schon Und Wohl*. Frankfurt am Main: Peter Lang.

Meisnitzer, Benjamin. 2012. “Modality in the Romance Languages: Modal Verbs and Modal Particles.” In *Modality and Theory of Mind Elements across Languages*, edited by Werner Abraham and Elisabeth Leiss, 335–59. Berlin/Boston: De Gruyter.
Moroni, Manuela Caterina. 2010. *Modalpartikeln Zwischen Syntax, Prosodie Und Informationsstruktur*. Frankfurt: Peter Lang GmbH.
Mosegaard Hansen, Maj-Britt. 1998. *The Function of Discourse Particles: A Study with Special Reference to Spoken Standard French*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
Nicolle, Steve. 1998. “A Relevance Theory Perspective on Grammaticalization.” *Cognitive Linguistics* 9 (1): 1–36.
Radtke, Edgar. 1983. “Gesprochenes Italienisch Zwischen Varietätenlinguistik Und Gesprächsanalyse.” In *Varietätenlinguistik Des Italienischen*, edited by Holtus Günter and Edgar Radtke, 170–94. Tübingen: Narr.
Recanati, François. 1993. *Direct Reference: From Language to Thought*. Oxford: Blackwell.
Schoonjans, Steven. 2013. “Modal Particles: Problems in Defining a Category.” In *Discourse Markers and Modal Particles. Categorization and Description*, edited by Liesbeth Degand, Bert Cornillie, and Paola Pietrandrea, 133–62. Amsterdam: John Benjamins.
Sensini, Marcello. 1997. *La Grammatica Della Lingua Italiana*. Milano: Mondadori.
Serianni, Luca. 1997. *Italiano. Grammatica, Sintassi, Dubbi*. Torino: Garzanti.
Thurmair, Maria. 1989. *Modalpartikeln Und Ihre Kombinationen*. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
Trifone, Pietro, and Massimo Palermo. 2020. *Grammatica Italiana Di Base*. Bologna: Zanichelli.
Waltereit, Richard. 2001. “Modal Particles and Their Functional Equivalents: A Speech-Act-Theoretic Approach.” *Journal of Pragmatics* 33 (9): 1391–1417.
Weydt, Harald. 1969. *Abtönungspartikel*. Berlin/Zürich: Verlag Gehlen.
Wilson, Deirdre, and Dan Sperber. 1988. “Mood and the Analysis of Non-Declarative Sentences.” In *Human Agency: Language, Duty and Value*, edited by J. Dancy, J. Moravcsik, and C. Taylor, 77–101. Stanford: Stanford University Press.
Zorraquino, Maria Antonia Martín. 1992. “Spanisch: Partikelforschung.” In *Lexikon Der Romanistischen Linguistik, Band VI: Aragonesisch/Navarresisch, Spanisch, Asturianisch/Leonesisch*, edited by Günter Holtus, Michael Metzeltin, and Christian Schmitt, 110–24. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.